

世界のオレンジ市場

FreshPlaza 2023年10月20日

世界のオレンジの出荷が南半球から北半球に移るにつれて、多くの国の市場で高い価格が目立っている。オランダでは、価格の高い南アフリカ産のシーズンからスペイン産オレンジへの移行が価格設定に影響を与えた。ドイツでは南アフリカ産とオーストラリア産のオレンジの価格が高止まりしており、フランスでは気象条件が出荷に影響を与えているためエジプト産オレンジが広まっている。

イタリアでは南アフリカ産オレンジの出荷に関する問題から品不足となっており、北半球産ではネーブル種が不足している。スペイン産柑橘類の出荷は干ばつの影響を大きく受け、収量が減少し価格が高騰している。エジプトは欧州や他の地域での域内/国内供給の減少を埋める輸出の増加に注目している。

南アフリカでは価格が前年に比べて2倍になり、北米では、安定した需要と高い品質がフロリダ州の柑橘類シーズンを特徴づけており、カリフォルニア州は有望な収穫に向けて準備を進めている。

オランダ：高価な南アフリカ産のシーズンの後にスペイン産が入荷

南アフリカ産は今年、生食用オレンジの価格水準が安定していたが、市場では搾汁用オレンジが大幅に不足していたため価格が高くなり、販売に影響を与えた。一方、最初のスペイン産ナベリーナ品種(ネーブル種)が出荷されている。オランダのある輸入業者は、「当社に出荷している業者は、サイズのバランスが良いと言う。価格に関しては、現時点では南アフリカ産が唯一参考となる。スペイン産に、今の南アフリカ産の18~20ユーロという高い価格をつけることはできない。市場の状態が変わらなければ、スペイン産オレンジの価格水準は15~16ユーロ程度になる可能性が高い」と予想している。

ベルギー：スペイン産の収量の低下が販売に悪影響を与える可能性

ベルギーのある業者は、「先週の気温の低下によりベルギーのオレンジ需要は少し増え始めている。弊社はまだ最後の南アフリカ産オレンジを扱っているが、ここ数週間に関心がそう高くないにもかかわらず、価格は高めである。悪天候の中で人々がビタミンを取ろうとオレンジを多く買っているため需要が高まり始めているが、価格水準がどうなるかはまだわからない。供給量は豊富であったが、弊社は今スペイン産に切り替えているところである。こちらは干ばつと水不足に関する問題が続いているため、いくらか量が少なくなると予想される。それによっても価格が高くなる可能性があり、最終的にはこの時期の販売に良いことはない」と話す。

ドイツ：オレンジの価格は依然として高い

ドイツ市場では、ミッドナイト、ネーブル、バレンシアといった南アフリカ産のブロードオレンジ(白肉系)が引き続き最も多く、注目を集めてかなり高い価格を維持した。目新しいのはオーストラリア産のブラッドオレンジ(赤肉系)で、サイズ8が15kg箱当たり50~52ユーロであった。南アフリカ産のタロッコオレンジは1kg当たり2.35ユーロで販売された。さらに、スペインとイタリアから最初の荷が到着した。ある直輸入業者は、通常はかなり安いイタリア産の搾汁用オレンジでさえ、現在はかなり高いと報告している。

フランス：エジプト産が広まる

現在フランス市場では、南アフリカ産のネーブル種が終わりに近づいている。フランス市場では通常スペイン産が主であるが、今年は気象条件が出荷に大きな影響を与え、品質にも影響が出ている。このため、今年はエジプトにチャンスがあり、フランスと欧州への出荷を増やすと見られる。これまでのところ、気温が高いために需要は低かったが、寒い季節の到来とともに需要がわずかに増え始めている。

イタリア：深刻な小玉の不足が価格を押し上げる

国内産がオフシーズンのイタリアに輸入される柑橘類に関しては、出荷シーズンの開始以来、ある大規模多国籍企業のマネージャーによって、出荷に関するいくつかの重要なポイントが指摘されている。特に南アフリカ産のオレンジに関しては、今シーズンは小玉果(搾汁用)の深刻な不足が特徴である。これがカンキツ黒点病(CBS)の問題と相まって、1kg当たりの価格がかなり高くなっている。実際、これがオレンジ不足の主な理由である。ほとんどの輸入業者は、一部の注文をキャンセルしなければならなかった。

北半球の柑橘類出荷シーズンの予測は、スペイン産ネーブル種の大規模な不足を示しており、10月と11月

の価格に大きな影響を与えると見られる。しかし、現在のところ、イタリア産の予測は、前年と同様の安定した状況を示している。南イタリアのある輸入業者は「世界的には、オレンジは約40%減少すると予想されている。海外産柑橘類の現在の高値は、少なくともエジプト産 - 通常欧州市場に大量に流入する - の入荷まではこの傾向が続くことを示唆している」と述べた。

スペイン：出荷量の減少と高い価格

農水食品省によると、スペインの2023-24年度の柑橘類の収穫量は580万トンに満たないと予想され、前年度と同程度だが、過去5年平均より約15%少ない。オレンジは、今シーズンも出荷量が最も多い柑橘類で、全体の45.9%を占めるが、平均よりほぼ6ポイント少ない可能性がある。オレンジの出荷量はすでに減少が見られた前年を8.2%下回る264万3千トンで、過去5年間の平均より約24%(-83万2千トン)少ない。

スペインで干ばつの影響を最も受けている柑橘類産地は、全国のオレンジの大部分を生産しているアンダルシア州である。スペインの主要産地の1つである同州グアダルキビルバレー地域のオレンジ収穫量は、前年度に比べて20%減少し、潜在的生産可能量である過去の平均を約50%下回ると見られる。

この低い収量は、主に水不足、開花期と着果期の異常に高い気温、及びその後の段階で一部の地域で灌漑制限をもたらした熱波によるものである。果樹園の大部分は、必要な水の15%未満しか得ることができなかった。アンダルシア州のオレンジにとっては前例のない劇的な状況であり、全般的に小玉が多くなる。

このような供給量の低さが予測されたため、オレンジの供給をできるだけ早く確保したいと考えた梱包出荷業者らによる園地での買い付けは、通常よりも大幅に早く開始され、多くの投機的な動きが見られた。このため、オレンジの価格は昨年に比べてもかなり高くなっている。(以下省略)

エジプト：輸出業者は主要地域での存在感を高めることを目指している

オレンジの出荷シーズンへの期待は楽観的である。欧州の雨の少ない気象条件により、域内供給の減少分に代わるエジプト産オレンジの需要が増加している。特にスペインとイタリアでのオレンジの約30%の大幅な減少は、エジプトが不足分を埋める機会を提供する。エジプトの輸出業者らは、欧州の次に、北米、アジア、中東など主要地域での存在感を高めることを目指している。柑橘類産業は、販売戦略と成長傾向の変化を目の当たりにしており、エジプトの輸出業者らは有機オレンジの需要の高まりに注目している。

南アフリカ：価格は今年のこの時期の2倍

今シーズン最後の南アフリカ産オレンジがケープ地方で収穫・梱包された。晩生オレンジのミッドナイト品種が史上初めて100万箱以上送られた米国では、最後の船が今月末に到着する。

柑橘類の総輸出量の見通しは1億6,440万箱(15kg/箱)で、2022年の輸出量1億6,480万箱をわずかに下回る。そのうち、7,500万箱がオレンジ(ネーブル種とバレンシア種)であり、欧州向けが2,550万箱で、依然として最大の輸出先である。

EUは南アフリカ産オレンジの3分の1以上を購入しているが、大雨の後にはカンキツ黒点病とフォールスコドリリングモス(害虫)の問題があり、輸出業者らは南アフリカ産オレンジの2番目に大きな輸出先である中東(1,350万箱)やアジアなど他の市場向けに果実を転用した。

国内市場では、オレンジは昨年同期の2倍以上の7.23ランド(0.38ユーロ)/kgで取引されている。

北米：シーズン開始に向けて国内産オレンジの価格が上昇

フロリダ州産のオレンジは着実に出荷されており、これまでのところ2022年よりも穏やかなシーズンようだ。昨シーズンはフロリダ州にとって特別で、2つのハリケーンと低温により出荷量が減少した。今年、晩春から初夏にかけてフロリダ州中部ではかなり乾燥していたため、2023年産果実のサイズはわずかに小さくなった。出荷は9月中旬にフロリダ州産果汁用オレンジで始まり、今週はネーブル種に移行した。品質は良好である。今年1~2週間早く始まった出荷シーズンは、6月まで続く。

需要に関しては安定して果実の供給に一致しており、現在の価格は昨年と同程度か、またはわずかに高いようである。

米国内の反対側のカリフォルニア州では、収穫の開始が少し遅れるようで、11月1日から10日の間に始まるものと見られる。サイズは通常よりも良いと予想されるが、総出荷量は同程度ようだ。2023-24年度のカリフォルニア州産ネーブルオレンジの当初の出荷量予測は前年度比1%増の7,400万箱である。